

美術科 2年

## 構図に思いをのせて

### 【活動の目標】

知・技：写す角度や配置、拡大や縮小、光や陰影、時間の静止などに着目し、印象などをとらえ、カメラの特性を生かして表す。

思・判・表：被写体の印象や瞬間の美しさなどをもとに、構図やシャッター速度などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。

主：写真表現の特性を生かして表すことに関心を持ち、意欲的に取り組む。

### 【 問 い 】

- ・4月の初めに、「抱負」や「決意」というテーマで作品を作ることで、意欲を持たせる。  
(「問い」の工夫Ⅰ)
- ・カメラ機能を使うことで、構想や構図が見える形にすることが容易である分、何枚も写真を取り直すことで試行錯誤することができる。(「問い」の工夫Ⅱ)

今回 ICT を活用した場面	従来の活動
B4 表現・制作 chromebookのカメラ機能をつかって題材を表現する写真を撮影する。	デジカメをグループで1台貸し出すなどして、複数で共有する。
C1 発表・話し合い ・出来上がった作品を相互鑑賞をする際、データをそれぞれの手元で見ることができる。 ・写真と、主題を1つのシートにまとめる。	デジカメデータをプリントして、ワークシートに貼り付け、作品を見せ合いながら相互鑑賞を行う。

### 【資料】作品例

#### 構図に思いをのせて 「2年生の抱負・決意」



作品に込めた思い・構図の工夫

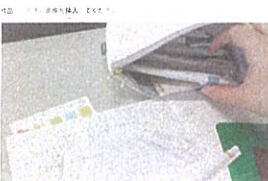
「構図に思いをのせて」  
「2年生の抱負・決意」

この写真には、自然にもっとも近い自由な自分を表現したいという思いが込められています。

構図の工夫  
この写真には、構図を工夫して、自然にもっとも近い自由な自分を表現したいという思いが込められています。



#### 構図に思いをのせて 「2年生の抱負・決意」



作品に込めた思い・構図の工夫

「構図に思いをのせて」  
「2年生の抱負・決意」

この写真には、自然にもっとも近い自由な自分を表現したいという思いが込められています。

構図の工夫  
この写真には、構図を工夫して、自然にもっとも近い自由な自分を表現したいという思いが込められています。

### 【ICT 機器を活用する良さ】

- 一人一台持っているので、自分のタイミングで、様々な写真を撮って試行錯誤しやすい。
- デジカメに比べ、画面が大きいので、どういう構図か確認でき、撮りながら調整できる。
- 写真を撮ったあと主題や、表現するための工夫などが端末の中でまとめることが容易である。

### 【改善すべき点と原因および改善案】

- ・普段写真を撮りなれているため、主題をもとに撮るといよりも、見栄えのいい写真を撮ることに意識がいつている。

⇒原因

はじめに構想を練らずに、写真を撮るところから始めたことで、考えが深まっていない。

⇒改善案など

撮りながらの試行錯誤も必要だが、まずは、構想を練ってどういう構図でどんなものが対象になると主題を表せるのかということを考える時間を確保する。

美術科 3年

## あの日を忘れない ～美術の力を考える～

担当 矢治朋恵

### 【活動の目標】

知・技形や色彩などが感情にもたらす効果や、物の組み合わせや構図などを基に全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。

思・判・表：造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の訴えたいことや表現の意図と創造的な工夫、社会における美術の力について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。

主：鑑賞主体的に絵に込められた作者の訴えたいことや表現の意図と創造的な工夫、社会における美術の力について考えるなどの鑑賞の活動に取り組もうとしている。

### 【 問 い 】

「自然災害」と「人災」を題材にした作品を交互に鑑賞させることで、作者が作品を描くことで伝えようとしたメッセージがあることに気づき、その内容を造形的な視点を働かせ探らせる。

（「問い」の工夫1）

描かれているテーマについて整理し、作者の意図や心情、表現の工夫について2作品を同時に比較し共通性を探らせることを通して、類似性がある部分と、表現方法や作品の背景による違いなどを考え美術の力について考えさせる。

（「問い」の工夫2）

今回 ICT を活用した場面	従来 の活動
A1 教員による教材の提示 教室前方のスクリーンと、右側の壁面に絵画を映し出して大きな作品を並べて比較鑑賞をする	教科書や資料集に掲載された写真をみて鑑賞する
B3 思考を深める学習 教科書に掲載されているバーコードを読み込んで作品の細部まで自分のペースで鑑賞する。	A3サイズ程度に印刷したものを使って細部の鑑賞

### 【資料】（授業の様子）



### 【ICT 機器を活用する良さ】

○スクリーンや壁面にプロジェクターで作品を大きく映し出すことで大きさなどを直感的に感じ取ることができる。

○教科書の資料として掲載されている作品データを手元の端末で見ることができる。また、一人1台あることでそのとき見たい部分を自分のペースでじっくり鑑賞することができる。

### 【改善すべき点と原因および改善案】

・大きさを感じさせるために壁面に映し出したが、実物大までは拡大できない

⇒原因

機械の性能上の限界がある。

⇒改善案など

全体じゃなくても部分を実物大にして比較するなど、見せ方に工夫ができる。また、今回の授業は内容が多く、じっくり見るインプットの時間が不足していた。一人一台の利点をさらに生かせるように時間的な余裕も必要だと感じた。

美術科 3年

## 心のイメージを形に

担当 矢治朋恵

### 【活動の目標】

知・技：形や色彩，その組み合わせに着目しイメージをとらえ，絵具などの材料を生かして表している。  
思・判・表：感情やイメージをもとに，形や色彩。構成などの効果を考え，構想を練ったり鑑賞したりしている。

主：感情やイメージなどを形や色彩で表すことに関心を持ち，意欲的に取り組んでいる。

### 【 問 い 】

作家の抽象表現作品とタイトルを組み合わせる鑑賞活動をすることで，造形的要素に注目させ抽象表現の豊かさを感じ取らせる。

（「問い」の工夫1）

感情を抽象表現で表す作品を経て合唱曲についての作品を制作することで，形のない感情や音などを表すことへの興味と意欲を持たせる。

（「問い」の工夫2）

今回 ICT を活用した場面	従来 of 活動
A1 教員による教材の提示 導入の鑑賞の教材として，スライドに作品とタイトルを4種類載せたものを配付する。	教科書や資料集に掲載された写真をみて鑑賞する
B3 思考を深める学習 iPad の Fresco というアプリを使って，作品を制作する。	水彩などの画材を使って絵画作品を制作する。

### 【資料】（授業の様子）



### 【ICT 機器を活用する良さ】

○何度もやり直しができるので積極的に自分の発想を試すことができる。

○実際に絵の具で描くときにうまくできない技法なども，アプリの機能を使うことで思うように表現することができる。

### 【改善すべき点と原因および改善案】

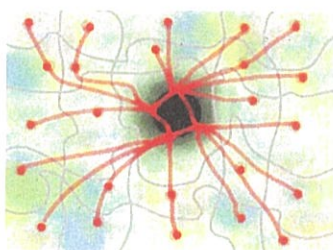
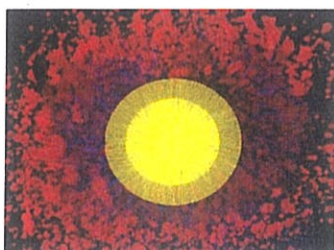
・発想がなかなか深まらず，思考の流れをうまく作ることができなかった。

⇒原因

アプリにある沢山のツールを使うことに集中してしまい，発想を基にした作品作りではなく，なんとなく気に入った表現などに偏ってしまった。

⇒改善案など

アプリの機能などに慣れさせる時間の確保は必要だった。ある程度の表現の種類を把握したうえで，発想や意図に合わせて構想を練ることができるようにしたい。



保健体育科 1年

## 体育分野 体育全般～運動を楽しく取り組むための要因調査～

担当 羽田野 直樹

### 【活動の目標】

運動の得意・不得意，経験の多い少ないなどによって，楽しく運動に取り組むための要因がどう違うのかを調査することによって，苦手な生徒も楽しく取り組むことができる体育の在り方について考える。

### 【 問 い 】

- ・運動の日ごろからの取り組みや，体育についての得意・不得意，運動の好き嫌いなどを調査し，さらに，運動に楽しく取り組めるための要因についての調査。

今回 ICT を活用した場面	従来 of 活動
B2 調査活動 googleform で作成したアンケートを googleclassroom に添付することによって，アンケートを実施した。そのデータを用いて今後の分析につなげていく。	これまで，紙面でのアンケートで調査を行い，エクセルへの手入力を行っていた。

### 【資料】①googleclassroom に上げたアンケート



### 【ICT 機器を活用する良さ】

- データの収集と入力が短時間でできること。
- 紙媒体ではなくデジタルワークシートにすることで，データ形式の変換等がスムーズにできる。

### 【今後の展望】

- 今回の調査で「体育の授業を楽しく思える要因」を生徒からたくさん挙げてもらっている。次回は，それらの要因をたくさん提示し，それが一人ひとりの考えにどのくらい関わっているのかを調査し，分析することによって，全体のデータからは見えない要因を見つけ出し，今後の授業に役立てていく。

### 主な手法

- ・因子分析
- ・クロス集計

保健体育科 1年

体育分野 ダンス～CB を用いた評価の在り方について～

担当 羽田野 直樹

【活動の目標】

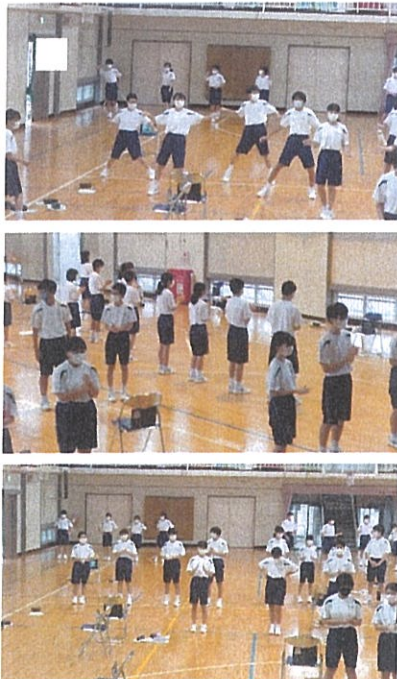
動画をもとに自分の動きを見直すとともに、改善した自分たちのダンスを形として残す。

【 問 い 】

- ・組み合わせたダンスを実際に踊ってみよう。(問いの工夫Ⅰ)
- ・ダンスを見返し、動きを確認することでより改善したダンスを練習し、実践しよう。(問いの工夫Ⅱ)

今回 ICT を活用した場面	従来の活動
<p>A 教員による一斉の作品収集</p> <p>自分たちのダンスを改善したうえで、もっともよくできたダンスを提出することによって、自分たちのダンスを記録として残すとともに、クラスメイトに共有することができる。</p>	<p>全体の前や教員の前で、1グループずつ踊って披露する。</p>
<p>C3 思考を深める活動</p> <p>自分たちのダンスを撮影して見返すことによって、イメージしていた表現ができていないか、肘を伸ばすなどの細部の動きがどのように見えているかを確認し、改善点を見付ける。</p>	<p>他のグループなどに見てもらい、言葉で伝えてもらったり、自分たちのグループで交代しながら動きを見合ったりして、改善点を探す。</p>

【資料】①ダンスを実際に撮影している場面



評価用の動画を撮影する際には、一斉に音楽を流し、合わせてダンスを躍らせ撮影させることで、全グループが短時間に踊り、撮影することができた。

【ICT 機器を活用する良さ】

- 自分たちのダンスを見返すことができるので、実際に観戦者からどのように見えているのかをイメージしやすい。
- 撮影した動画を見ることで、改善点が把握しやすい。
- 動画をアップして google classroom の課題として提出させることで、評価にも活用できる。

【改善すべき点と原因および改善案】

- ・撮影範囲をこえてダンスを踊ることにより、映像に残せない部分ができてしまう。
- ⇒事前の十分な調整が必要。
- ・ダンスの隊列によっては、どうしても死角がうまれてしまう。
- ⇒評価等で支障が出る場合もあるので、評価で使用する場合には特に、一定の隊列で踊らせる必要がある。

保健体育科 1年

## 保健体育科 Form による振り返りからの深化

担当 羽田野 直樹

### 【活動の目標】

保健の授業の振り返りにより、疑問等を解決し、次時の冒頭ではあるがさらに深い学びを目指す。

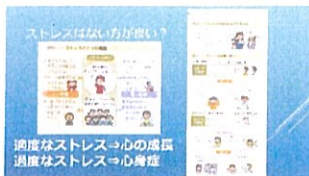
### 【 問 い 】

- ・本時の学習を振り返り、学んだことや感想を記入しよう。
- ・本時の中で、疑問に思ったことや自分の経験からの悩み等があれば記入しよう。

今回 ICT を活用した場面	従来 の活動
<b>B1 個に応じる学習</b> 保健の授業で使用したスライドを，classroom に提示し，復習等で使用できるようにした。また，実技の授業で学習した知識の内容なども提示することで，知識の深化を図った。	スライドの印刷を配布するなどしていた。また，実技については図などを印刷した上で，板書等で説明することが多かった。
<b>C2 協働での意見整理</b> 授業後に，その授業の振り返りや疑問等を Form にて調査し，その内容についての補充・深化を次時の冒頭に行うルーティンを行った。	振り返り用紙に記入させたり，個別に質問に来させたりするなどの対応をしていた。

### 【資料】

#### ①保健分野スライド ②体育理論による動画提示



### 【ICT 機器を活用する良さ】

- 授業スライドをアップすることによって，生徒個人の振り返りもしやすくなり，欠席者が学習に役立てることもできている。
- 授業内容に関する生徒一人一人の疑問や悩みをしっかりと把握でき，解決することにもつながる。
- 技能テストでは細かい部分までの指導や評価がしやすい。

#### ③Form による振り返り ④技能テストでの活用



保健体育科 2年

## がんの予防

担当 板井 渉

### 【活動の目標】

がんの予防方法を理解することができる。

### 【 問 い 】

- ・中学生の死因第3位であるがんを自分事にとらえがんへの関心を高める。(問いの工夫Ⅰ)
- ・事例をもとにがんの予防に必要なことを振り返りレポートを提出する。(問いの工夫Ⅱ)

今回 ICT を活用した場面 レポート提出	従来 of 活動
B4 表現・制作 レポート作成・提出 がんの体への影響や予防方法について学習した。 日本人の死因第1位であるがんのリスクを減らすためにどのようなことが大切かをレポートにまとめ提出をした。	ワークシートを提出。

### 【資料】

次の事例を読んで、Aさんにどうやってがん検診を受けることをすすめるか、学んだことをもとに書きなさい。

【事例】 Aさんは仕事が忙しく、「今は体の異常もないから大丈夫。それにがん検診でなにか見つかったら仕事に戻れないし」と言っています。



### 【資料】 生徒が作成したレポート

・「早期発見、早期治療することで、病気の悪化を防いだり、仕事復帰、社会復帰も可能だから今検査を受けていたほうがいいと思うよ。手遅れになるよ。」

・「絶対に受けたくないのなら、食生活を見直したり、睡眠時間を長く取ったりして、今できることをした方がいいと思うよ。」

### 【ICT 機器を活用する良さ】

○提出状況が把握しやすい。  
すぐにチェックができる。

○内容を共有し、意見交換に役立てることができた。

### 【改善すべき点と原因および改善案】

・電波の状況に応じて提出が遅れる生徒がいた。  
⇒状況がよくなるのを待ち、場合によっては昼休みなどの時間を利用して提出できるように配慮する。

保健体育科 2年

## ダンス

板井 渉

### 【活動の目標】

リズムに乗って自分たちで考えたダンスを踊ることができる。

### 【 問 い 】

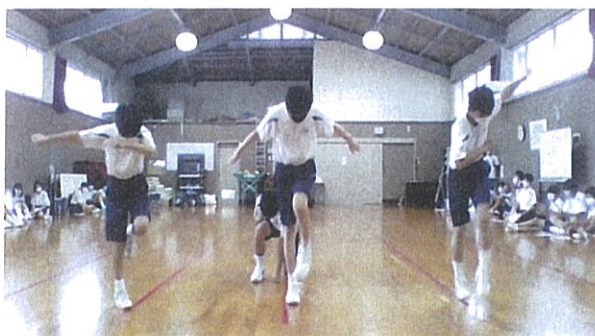
- ・生徒の身近な音楽を使い、ダンスに参加しやすい曲をつかった。
- ・各グループでオリジナリティーある踊りを考える。(問いの工夫Ⅱ)

今回 ICT を活用した場面	従来の活動
<p>B2 調査活動</p> <p>自分たちの踊りを動画に撮影。</p> <p>各グループで1分間の踊りを考え発表会を行った。自分たちの踊りを客観的に見ることで立ち位置やきれいな見せ方などを見つけることができた。</p>	<p>お互いに踊りを見せ合う。</p>
<p>C1 発表・話し合い</p> <p>CB で撮影し、評価をした。</p> <p>ダンスの技能テストを行った。</p>	<p>その場で評価する。</p>

### 【資料】 CB で自分たちのダンスの確認



### 【資料】 CB で撮影し評価につなげる。



### 【ICT 機器を活用する良さ】

- 自分たちの動きを撮影し確認できる。
- 技能チェックにいかすことができる。

### 【改善すべき点と原因および改善案】

- ・CB の管理の仕方。
- ⇒運動中踏んだり蹴ったりする可能性がある。
- ⇒ステージに置くなどして破損しないようにする。



保健体育科 2年

## バレーボール

担当 板井 渉

### 【活動の目標】

がんの予防方法を理解することができる。

### 【 問 い 】

- ・ワークシートの①と②に着目させ動画を視聴することで個人とチームの動きを伝え合う。
- ・決めた約束がラリーをつづけることにつながったかをふりかえる場面を設定する。

今回 ICT を活用した場面 レポート提出	従来の活動
<p>B4 表現・制作</p> <p>前時で撮った動画を元に空いた場所を作らないために必要なことをグループで話し合いをする。動画を見て話し合ったことがうまくいったか確認をする。</p>	<p>お互いに見て改善点などを伝える。</p>

### 【資料】

それぞれ動画を撮影する。



### 【ICT 機器を活用する良さ】

- 自分たちの行動分析がすぐに行える。
- 課題の共有がしやすい。

### 【改善すべき点と原因および改善案】

動画の確認に時間が取られ運動の活動時間が少なくなってしまう。

⇒運動時間の確保のために CB を使う場面の時間設定をする。

### 【資料】

動画をもとに改善点を話し合う。



保健体育科 3年

体育分野 ダンス～演舞を習得して，伝統を引き継ごう～

担当 木梨 祐司

【活動の目標】

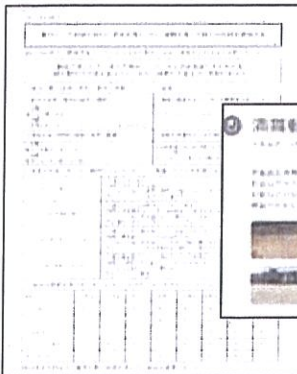
集団として統制の取れた動きを身につけ，演舞を通して附中の伝統を表現する。

【 問 い 】

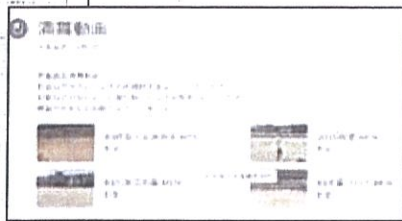
- ・演舞を習得するために，各動作で押さえるべきことはどんなところだろう。(問いの工夫Ⅰ)
- ・後輩に演舞を引き継いでいくために，指導するポイントを確認しよう。(問いの工夫Ⅱ)

今回 ICT を活用した場面	従来の活動
B1 個に応じた学習 過去の演舞の動画を各学級の classroom に収めて，個人で動画を確認できるようにした。また，個別のワークシートを用いて活動の記録と振り返りに取り組んだ。	過去の動画を見るのは演舞の指導リーダーのみで，そこから全体に指導する形を取っていた。また，取り組みの様子のみで評価をせざるを得なかった。
C2 協働での意見整理 演舞の指導リーダー（応援団）を中心に動きを確認しあい，その後の全体活動が円滑に進むようにした。その際に，出席できなかった生徒が家庭からのリモートで参加するなどした。	口頭や身振りのみで指導をする形が基本となる。全体の動きを撮影してもらい，活動後に指導リーダーを中心に見直しをするようにしていた。

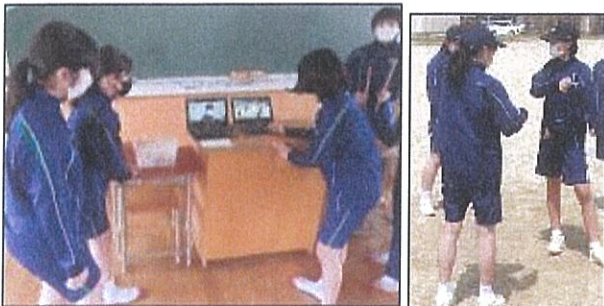
【資料】①生徒が取り組んだワークシート



②クラスルーム動画



③指導リーダーのリモート打ち合わせと演舞練習



【ICT 機器を活用する良さ】

- 動画で過去の映像をいつでも見返すことができることで，個人での練習や全体のイメージを持つことができた。
- 紙媒体ではなくデジタルワークシートにすることで，取り組みの様子を経過観察ができる。その都度回収しなくても良くなった。
- 出席できない生徒もリモートで意見交換ができた。

【改善すべき点と原因および改善案】

- ・動画の取り扱いと管理を徹底する。  
⇒ダウンロード不可の設定をし，取り扱いについてもネットモラルの指導と並行して行った。
- ・評価についての基準を明確にする。  
⇒取り組みの様子とワークシート，さらに後日に共通の演舞をスキルテストとして実施。それらから総合的に評価をする。

保健体育科 3年

体育分野 器械運動～技能の習得を目指したレポート作成～

担当 木梨 祐司

【活動の目標】

めあてとする技能の習得を目指し、ワークシートをもとに写真や動画などから自分の動きを見直す。

【 問 い 】

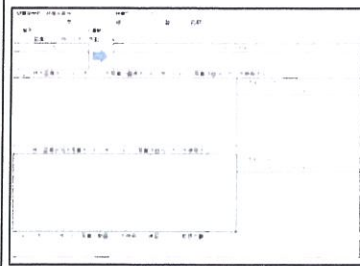
- ・自分の技能に合わせて、習得したい技を選んで練習しよう。(問いの工夫Ⅰ)
- ・自分の技の様子を撮影して、練習で重点とするポイントについてまとめよう。(問いの工夫Ⅱ)

今回 ICT を活用した場面	従来 of 活動
<p>B1 個に応じた学習</p> <p>紙媒体のワークシートから技能のポイントを押さえて練習を進める。また、動画を用いて実際の動きなどを参考にする。それらをもとに ICT レポートの作成に取りかかる。</p>	<p>紙媒体のワークシートをもとに学習を進める。グループで教え合い活動や補助などを通して技能の習得を目指す。学習の様子やワークシートの取り組み、技能テストなどで評価する。</p>
<p>C2 協働での意見整理</p> <p>自身の技の動きを撮影してもらい、振り返りをする。技のどの場面を重点的に振り返りたいのかをグループの中で共有し、撮影してもらうことで、押さえるべきポイントをとらえることができる。</p>	<p>自分の動作を動画や写真で確認するなどはこれまでも取り組んでいた。自身の動きの修正点などを見直したり、アドバイスを受けながら学習を進める。</p>

【資料】 ①技能ポイント有ワークシート(紙媒体)



②ICT レポート



【ICT 機器を活用する良さ】

- 自分の動きを視覚的にとらえることができるので ICT 機器を用いた撮影は有効である。
- ICT レポートにすることで、取り組みの様子を経過観察ができる。その都度回収しなくても良くなった。進捗状況を把握しやすい。
- 動画を用いた良い動きの再確認だけでなく、押さえるべきポイントを考えて撮影することで、漠然と撮るといったことが減少した。

【改善すべき点と原因および改善案】

- ・画像の取り扱いと管理を徹底する。
- ⇒自分の CB で撮影するのは自分のみとし、他人を撮影しないように注意を伝えた。
- ・技能の撮影に困難さを感じた生徒も多い。
- ⇒重量があり、折り畳んで撮影ということもあり慣れない様子も見られた。紙媒体のワークシートもあり煩雑になってしまった。

③制作途中のレポートと動画の活用



保健体育科 3年

## 保健体育科 ICT の使用実践～活用の手立てを模索～

担当 木梨 祐司

### 【活動の目標】

めあてとする技能の習得を目指し、ワークシートをもとに写真や動画などから自分の動きを見直す。

### 【 問 い 】

- ・学習した内容を振り返り、知識の定着を図ろう。(問いの工夫Ⅰ)
- ・写真や動画の撮影から、自分の技の出来ばえを見つめよう。(問いの工夫Ⅱ)

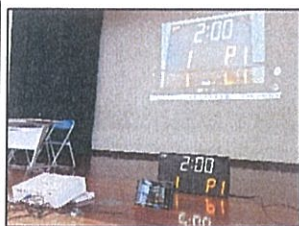
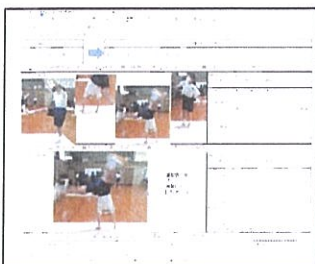
今回 ICT を活用した場面	従来の活動
<p>B1 個に応じる学習</p> <p>保健の授業において全時間で使用したスライドを授業後に資料として配布した。また、体育の競技ルールにおいてもデジタル資料として用意し、知識の定着を図った。</p>	<p>授業でスライドを教師が使用し、内容の定着を図る。競技ルールについては教科書を活用し実技や動画などを通して説明をする。</p>
<p>C2 協働での意見整理</p> <p>技の動きを撮影してもらい、振り返りをする。写真や動画で、押さえるべきポイントをとらえて撮影することで、習得のポイントを客観的に捉えたり、意見を交換したりすることができる。</p>	<p>動画や写真で動きを確認するなどはいずれも取り組んでいた。各自の評価はワークシートやスキルチェック、行動分析などを主に行っていた。</p>

### 【資料】

#### ①保健分野スライド(生徒用) ②競技ルール説明



#### ③体育分野 ICT レポート ④タイマー拡大表示



### 【ICT 機器を活用する良さ】

- スライドとして学習内容を振り返ることで、授業内容の見直しができ、欠席した生徒も学習に滞りがないように進めることができた。
- ICT レポートの作成は、自分の技能を客観的に見直すことができ、着目した内容からも生徒の学習評価が見取りやすくなる。
- 学年のクラスマッチでタイマーを拡大表示することで、進行をスムーズにすることができた。

### 【改善すべき点と原因および改善案】

- ・スライドやデータの作成  
⇒基本的に教科書の内容をもとに作成したが、作成するにも時間がかかる。簡略化も必要。
- ・レポート作成について  
⇒文章作成や画面構成などに負担を感じる生徒もいた。また、怪我で参加できなかった生徒の対応も手立てとして必要となる。

技術科 2年

## 検索窓を作ろう

担当 添島秀紀

### 【活動の目標】

双方向性のコンテンツについて、ロールプレイ形式で検索欄を作る活動を通して、実生活の中で使われている Web ページの仕組みを知ることができる。

### 【問い】

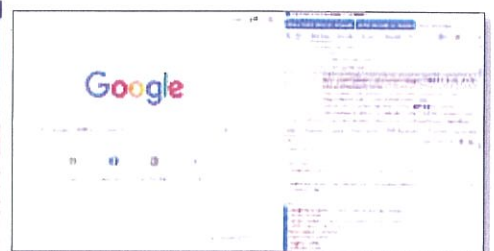
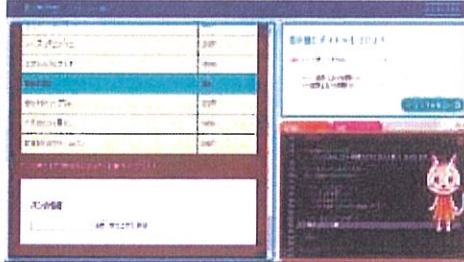
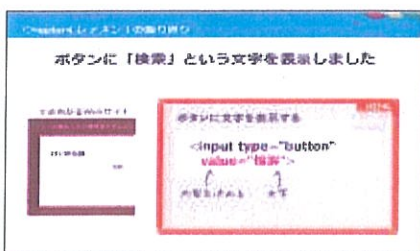
- ・検索窓を作ろう(問いの工夫Ⅰ)
- ・Google の検索欄を「検証」してみよう(問いの工夫Ⅱ)

今回 ICT を活用した場面	従来 の活動
A1 教員による教材の提示 大型スクリーンに本時の内容・ポイントを提示する【資料①】	板書や教員の画面を共有
B1 個に応じる学習 レッスンに個人の習熟度に応じて取り組む【資料②】 個人ごとのスピードに対応できる	PC 室内のネットワークを利用して課題に取り組む。個人のペースに応じて追加の課題を出す。
B3 思考を深める学習 Google の検索欄を「検証モード」を使うことでどのようなソースコードを使っているか確認し、レッスンで行った内容が実際の Web ページでも使われていることを確認する。【資料③】 実際にコードを変更し、レッスンで使ったコードを確かめる。	

【資料①】レッスンの説明資料

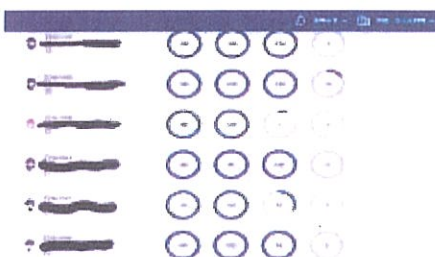
【資料②】レッスン時の生徒画面

【資料③】Google 検証画面



### 【ICT 機器を活用する良さ】

○生徒の習熟度やスピードに応じてレッスンを進めることができる。また生徒の進捗状況を一括して確認することができ、苦手とする生徒への支援がしやすい。【資料④】



### 【改善すべき点と原因および改善案】

- オンラインのレッスンを個人で進めていくので、ノート整理など個人に委ねられる。
- 小テストで定着度をチェックしているが、実際にどこまで理解できているか。

技術科 2年

## Cloud 9 を使った Web ページの共同制作

担当 添島 秀紀

### 【活動の目標】

利便性の視点により Web ページの問題点を見だし、閲覧する人を意識させ、実際の Web ページ制作のようにグループで役割分担をし、Web ページを改善する。

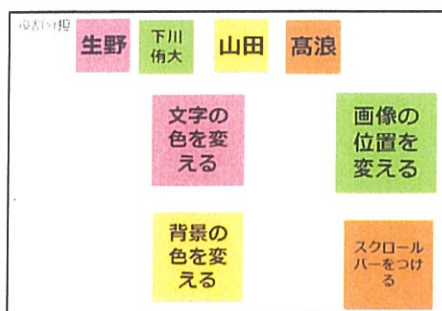
### 【 問 い 】

使いやすい Web ページにするためには、どんな工夫をすればよいか。

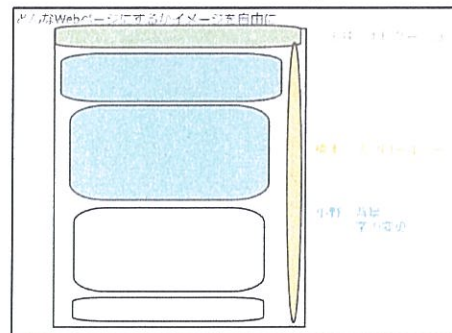
今回 ICT を活用した場面	従来の活動
<b>C1 発表や話し合い</b> ・グループの中で Web ページのどの部分を改善するかを分担する。 ・Web ページの大まかな構造を描き、ゴールイメージを共有する。	・紙媒体を使い、班長などが代表して紙にまとめる など。
<b>C3 共同制作</b> ・プログラムソフトを共有し、役割分担をした箇所を同時進行で改善していく。	・個人ごとに作成したプログラムを最終的に統合する。

### 【資料】

○役割分担 (jamboard を使って)



○Web ページのイメージ (jamboard を使って)



○実際の編集画面とプレビュー画面 (cloud9 を使って)



### 【ICT 機器を活用する良さ】

- ・イメージを同時進行で考えることができるので時間短縮になるのと人任せにならない。
- ・同時に編集できるので、役割分担をすればスムーズに作業が進む。

### 【課題】

- ・プログラムを同時に編集するとミスをした時の修正が難しい。
- ・操作の技量の差が顕著に出る。

英語科 1年

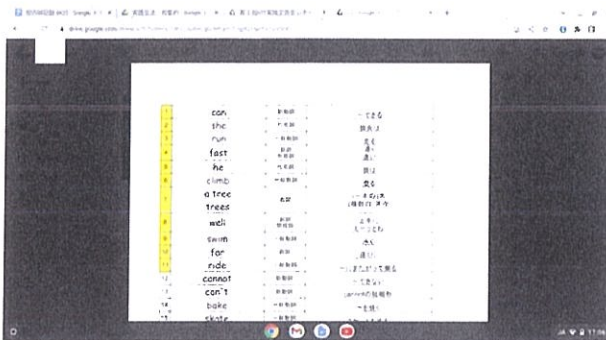
## 語彙の定着

担当 白根和延

### 【活動の目標】

ペアで英単語の日本語訳を確かめる活動を通して、新出語彙を覚える。

### 【資料】



1	can	助動詞	
2	she	代名詞	
3	run	一般動詞	
4	fast	副詞 形容詞	
5	he	代名詞	
6	climb	一般動詞	
7	a tree trees	名詞	
8	well	副詞 間投詞	
9	swim	一般動詞	
10	far	副詞	
11	ride	一般動詞	
12	cannot	助動詞	
13	can't	助動詞	
14	bake	一般動詞	
15	skate	一般動詞	

### 【ICT 機器を活用する良さ】

- インターネット環境に不具合がなければ必ず忘れ物が0となり、全員同じ資料を用いて活動ができる。
- 「スマホネイティブ世代」と呼ばれている生徒たちの実態に即した情報の提供の仕方となっている。
- 自宅の端末からも同じ資料が見れるので、紙で印刷したワークシートを持ち帰らなくて済む。
- これまでは紙媒体で印刷していた資料をデータとして配信することで、紙の使用量の削減及び、印刷業務の負担軽減につながる。

### 【改善すべき点と原因および改善案】

- インターネット環境によっては、生徒期の接続が上手くいかないこともある。
- ⇒データとして活用する資料はあくまでも補助としての機能のものにとどめておき、その授業で確実な使用をするものについては紙媒体にするなど、重要度のレベルに応じて紙媒体かデータ配信かを判断する。

外国語科 1年

## 日本特有の物について海外の人に説明する英文を書こう

担当 白根和延

### 【活動の目標】

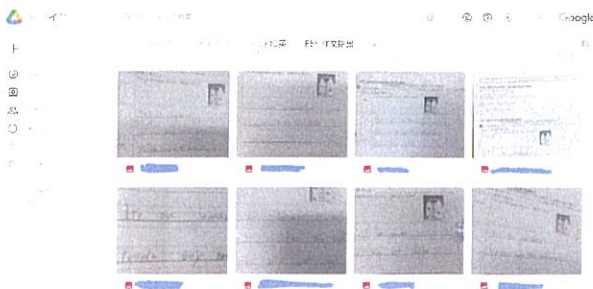
日本特有の物についての紹介文を書く活動を通して、代名詞を適切に用いた自然な説明文が書けるようにする。

### 【 問 い 】

- ・教科書本文内容が、メッセージのやりとりを通して絵馬について相手に説明する場面であった。本文内容のまとめにあたって、他の物ならどう説明するか、と投げかけた。(問いの工夫Ⅰ)
- ・作文が難しく感じている生徒については、級友の作品を参考に書くよう促した。(問いの工夫Ⅱ)

今回 ICT を活用した場面	従来の活動
B4 表現・制作 ワークシートに書いた作文を写真にとらせ、google ドライブにアップさせる。	ワークシートに書かせたものを、ペアや班でチェックし合い、内容や文法の向上を図らせる。

### 【資料】 アップされた生徒の英作文



### 【ICT 機器を活用する良さ】

- ワークシートに書いた作文を写真にとらせ、google ドライブにアップさせることで、アイデアや英文法について座席を超えた多対多の学びを促すことができた。

### 【改善すべき点と原因および改善案】

- 英語が得意な生徒が率先して投稿するよう促したが、期待していたほど活発にアップロードする様子がなかった。
- ⇒原因：間違った英文を投稿したくない、という思い。
- ⇒改善案など：教師が机間指導で点検して正確さを保障したものをアップロードすることから始めることで、まずは自信をつけさせることに重点を置きながら、活発化させたい。



英語科 1年

## Chromebook による振り返り

白根 和延

### 【活動の目標】

毎時間の授業の振り返りを google スプレッドシートに入力させることで、自己調整を図る場面を与える。

### 【 問 い 】

- ・その授業の評価規準に関する項目について、A・B・Cで入力させる。また、感想をタイピングさせる。

### 【資料】 生徒が作成したレポート

めあて	A・B・Cでふりかえろう	
Lesson7のゴールを知ろう	単元のゴールが理解できた	個人の魅力が伝わるために必要な情報について考えることができた
マークのメッセージを読み取る	A ビデオメッセージの内容を理解できた	A これからはず自分の目標をその人について書く
冬休みの思い出を気持ちよく伝えて	A 冬休みの思い出について語りたくない項目で伝えることができた	A いつも使っていた現在形が書けたのもっとス。
マークとジンの電話のやりとりを	B 電話のやり取りの内容を理解できた	A 冬休みの思い出(はまま)と同時に思い出(書き)で表現ができた
		A 今日過去進行形について、れないように気をつけた

### 【ICT 機器を活用する良さ】

- 振り返りや感想を書くことに苦手意識がある生徒も、時間内におおかたの振り返りを入力できる。
- 全員分の振り返りが一台の教師用 CB で容易にいつでも閲覧できる。

### 【改善すべき点と原因および改善案】

- ・現在、1年生は休み時間にCBを使用させないというルールがあるので、必ず授業時間内で振り返りを打たせなければならないことが苦しい点である。

英語科 2年

## スピーチを改良し、本番に臨もう。

担当 中村希美

### 【活動の目標】

「My Dream」自分の夢、将来やってみたいことについて、ペアでスピーチしその様子を録画し、動画を見ながら修正を加えることで、本番のスピーチへの準備をすることができる。

### 【 問 い 】

- ・自分の夢や将来やってみたいことについて、ペアで伝え合い、様子を録画しよう。(問いの工夫Ⅰ)
- ・volume, speed, eye contact, smileの視点で、自分のスピーチの改善点を探ろう。(問いの工夫Ⅱ)

今回 ICT を活用した場面	従来の活動
<p>B2 調査活動 CBを用いて、単語や表現方法を調べる。</p>	<p>教科書・辞書を用いて単語を調べる。</p>
<p>B4 表現・制作 ペアでお互いの発話を録画し、「声の大きさ」、「速さ」、「目線」、「表情」などの視点で、自分自身で改善点を探る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	<p>ペアで練習し、相手から指摘されたポイントを改善する。</p>
<p>C1 発表・話し合い 4人班で、司会、発表者、質問者、撮影者といった役割分担し、自分の夢ややってみたいことについて発表、動画をクラウドに上げる。 ※クラウド上の動画は一斉に視聴することはせず、全体で発表したい生徒には、前に出て発表させた。クラウドに上げさせた動画は、評価に使うため、指導者のみ視聴できるように設定した。</p> 	<p>全員が全体で発表する。もしくは、班の代表者1～2人を選び、前で発表する。</p>

### 【ICT 機器を活用する良さ】

- ビデオ録画することにより、客観的に自分のスピーチを観察し、改善点を探ることができる。
- より相手意識を持って発話しようとする。

### 【改善すべき点と原因および改善案】

- ・周りの声が入り込み、視聴する際、自分の声が聞き取りにくい。

英語科 2年

## 大分県の魅力を発信しよう。



担当 中村希美

### 【活動の目標】

大分県のおすすめの観光スポットや食べ物、イベントについて伝える活動を通して、実際に海外の英語講師とのオンライン英会話に自信を持って臨むことができる。

### 【 問 い 】

- ・大分県のおすすめの場所で何が楽しめるか紹介しよう。(問いの工夫Ⅰ)
- ・どんな表現を用いたら、大分県の魅力が伝わりやすいか考えよう。(問いの工夫Ⅱ)

今回 ICT を活用した場面	従来の活動
<p>B1 大分のおすすめの場所で何ができるか調べ、おすすめする理由や良いところをマインドマップにまとめ、そのメモを見ながら発話する。 (7月)</p>	
<p>B2 大分の紹介をする際に使える表現、英会話を継続するために使える表現を、CBの質問機能に思いつくままに列挙させ、全体で共有する。 (9月)</p> 	<p>ワークシートに記入させ1人ずつ発表したものを板書する。</p>
<p>C1 これまで蓄積した表現を用いて、オンライン英会話でフィリピン人講師に大分の魅力(おすすめの食べ物、訪問地、行事、天候、人々について)を伝える。</p> 	<p><b>【ICT 機器を活用する良さ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○質問機能によって、生徒全員の考えを一斉に共有することが容易になった。</li> <li>○オンライン英会話中、ほとんどの生徒がわからない単語があれば翻訳機能を駆使しながら、何とか会話を継続させようと粘り強く取り組んでいた。</li> </ul> <p><b>【改善すべき点と原因および改善案】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○使える表現を共有した後、表現をストックしていくのに、ワークシートでなく今後はスプレッドシートを活用していくようにしたい。</li> </ul>

英語科 2年

ポスターセッションで日本特有の土産物についてやり取りしよう。

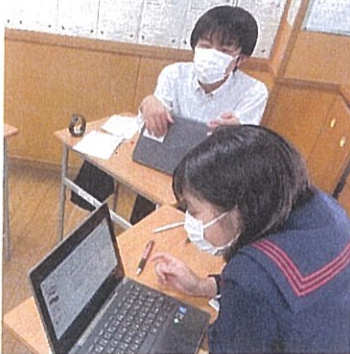


担当 中村希美

【活動の目標】

海外の旅行客にお勧めの日本特有の土産物について、その特徴や勧める理由について班でまとめ伝える活動を通して、発表の内容についてリスナーと短い対話を継続することができる。

【 問 い 】

- ・海外の観光客におすすめの日本のお土産について紹介しよう。(問いの工夫Ⅰ)
- ・どんな紹介の仕方をすると、そのお土産のよさが伝わりやすいか考えよう。(問いの工夫Ⅱ)

今回 ICT を活用した場面	従来の活動
<p>B1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本特有の土産物について調べ、その特徴や海外の旅行客にすすめる理由を英文でまとめる。班で1つのドキュメントに作成する。</li> <li>・紹介する土産物について2~3枚スライドを準備する。</li> </ul>	
<p>B2</p> <p>添削を加え完成した英文の原稿を Google 翻訳などに貼り付け、読み上げ機能を活用して、個別に、また班員と協力し発話の練習に取り組む。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	<p>生徒オリジナルの英文については、音声のモデルがないため、読みにくい単語の発音を1つ1つ確認する作業が必要である。個人練習の時間に積極的に教師に尋ねられる生徒と、消極的な生徒とでは練習に差が出やすい。</p>
<p>C1</p> <p>日本特有の土産物についてその特徴や海外の旅行客に勧める理由を伝え、リスナーからの質問に対し答えながら会話を継続させる。</p> <div style="display: flex;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p><b>【ICT 機器を活用する良さ】</b></p> <p>○読み上げ機能は正確な発音で読み上げてくれるため、発音しにくい単語を何度も聞き返し、模倣しながら生徒が発話練習に意欲的に取り組む姿が見られた。</p> <p><b>【改善すべき点と原因および改善案】</b></p> <p>○1回目の練習を録音しておき、数回練習した後再度自分の発話を録音し聞き比べるなどすると、英語らしい発音をより意識して発話できるようになると考えられる。</p> </div> </div>	

英語科 3年

What kind of songs do you recommend ? の内容をスライドでポスターセッションでやり取りをしよう

担当 三村 洋平

【活動の目標】

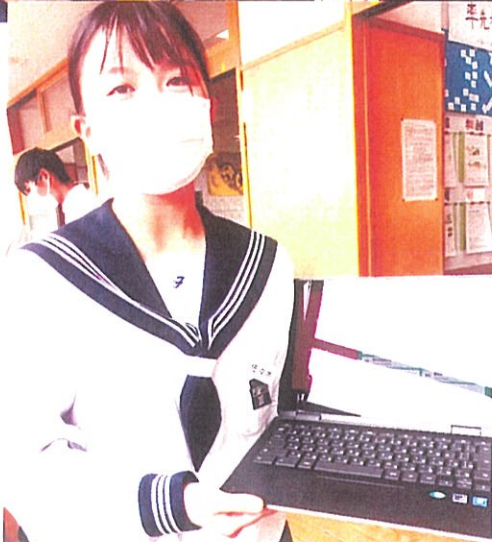
おすすめの歌について、班でChromebookのスライドを作成し、ポスターセッション形式での活動を通して、聞き手と2分間やり取りをすることができる。(思考・判断・表現)

【 問 い 】

- ・おすすめの歌について5枚以上のスライドを作成しよう。
- ・スライドを活用し、ポスターセッションで相手に分かりやすく英語で伝え合おう。

今回 ICT を活用した場面	従来の活動
B4 表現・制作 C1 発表・話し合い ・自分たちのおすすめの歌について、スライドを5枚程度作成した。(3時間) ・スライドを活用して、ポスターセッション形式でクラス内で英語でのやり取りを行った。(2時間)	・班で紹介文8文、質問文2文考えさせ、お互いに参考にできるように取り寄せた。前期中間考査にも出題し、正確に書くところまで意識させた。 ・完成したスライドについてもクラスルームのドライブに保存をさせて、お互いに見れるようにした。

【資料】生徒が作成したレポート



【ICT 機器を活用する良さ】

- スライドを作ることにより、発表するときの補助になり、聞き手の興味を引くことができる。
- スクリーンで共有できるので、生徒にポスターセッション内容を理解しやすい。
- クロムブックに保存できるので、補助教材として持ち運びがしやすくパフォーマンステストがやりやすい。

【改善すべき点と原因および改善案】

- 生徒に聞くと、紙媒体の方が活動がやりやすく、相手の興味を引きやすいという意見が多かった。
- 一人一人の学習状況を見極めながら、引き続き個に応じた支援を継続していく。

紹介文5文

"Osakana Tengoku" is sung by Hiromi Shibaya. It's often played in supermarkets. It's famous for its catchy lyrics and rhythm. The lyrics mean "let's eat fish." It was created as a campaign song for the Central Seafood

英語科 3年

What kind of songs do you recommend ? の内容をスライドで Show and Tell  
やり取りをしよう

担当 三村 洋平

【活動の目標】

おすすめの日本のアニメや漫画について、Chromebook で 3 枚程度スクリーンショットし、Show and Tell 形式での活動を通して、聞き手と 90 秒間やり取りをすることができる。(知識・技能)

【 問 い 】

- ・海外のどのような漫画や映画を見たことがあるかブレインストーミングで意見を促す。
- ・単元のゴールに向けて、どんな内容を話すと聞き手は興味を引くか。

今回 ICT を活用した場面	従来への活動
B4 表現・制作 C1 発表・話し合い ・おすすめの日本のアニメや漫画について、スクリーンショット3枚程度作成した。(1時間) ・スライドを活用して、ポスターセッション形式でクラス内で英語でのやり取りを行った。(3時間)	・ワークシートに自分たちが使った内容と使った表現をまとめ、班ごとにアップロードし表現や改善点を共有する。 ・完成したスライドについてもクラスルームのドライブに保存をさせて、お互いに見られるようにした。

【資料】

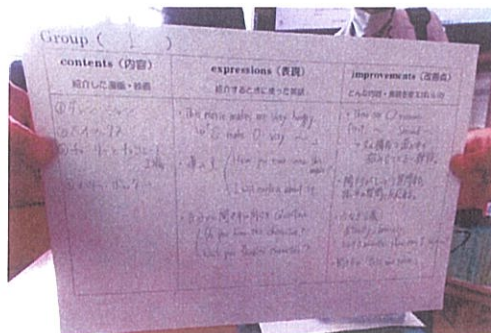


【ICT 機器を活用する良さ】

- 写真を用いることにより、発表するときの補助になり、聞き手の興味を引くことができる。
- スクリーンで共有できるので、生徒に振り返りの時に内容を理解しやすい。
- 印刷をする必要がなく、スピード感をもって英語による言語活動を行うことができる。

【改善すべき点と原因および改善案】

- この課では関係代名詞が言語材料となっていたが単元の1時間目での扱いが曖昧だった。
- 一人一人の学習状況を見極めながら、引き続き個に応じた支援を継続していく。



英語科 3年

20歳の自分に英語で手紙を書こう

担当 三村 洋平

【活動の目標】

20歳の自分に向けて、未来を創造し内容を考察したり、スライドを用いて Show and Tell の手法で発表したりする活動を通して、英語で手紙を書くことができる。(思考・判断・表現)

【 問 い 】

- ・5年後の自分はどこで何をしているだろうか想像させ意見を促す。
- ・単元のゴールに向けて、どのような表現を使うと相手は興味を引くか。

今回 ICT を活用した場面	単元活動 (6 時間扱い)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語での下書きは、クラスルームでクラス内で共有を図った。(1時間)</li> <li>・20歳の自分へ手紙を書く前に、スライドを作成し、show and tell で発表を行った。(2時間)</li> <li>・完成したスライドについてもクラスルームのドライブに保存をさせて、お互いに見れるようにした。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①内容を考える (教科書)</li> <li>②考えを整理する (CB)</li> <li>③スライドを作成する (CB) 2時間</li> <li>④Show and Tell で発表</li> <li>⑤20歳の自分に向けて手紙を書く</li> </ol> <p>2028年1月 郵送予定 (同窓会があった場合は手渡し)</p>

【資料】

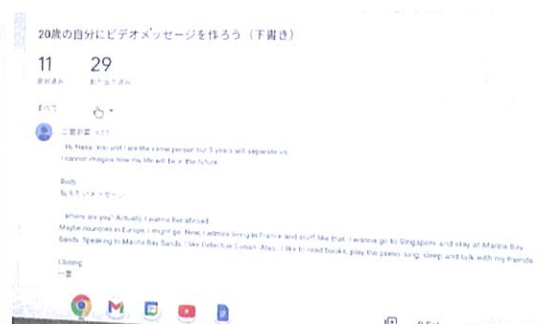
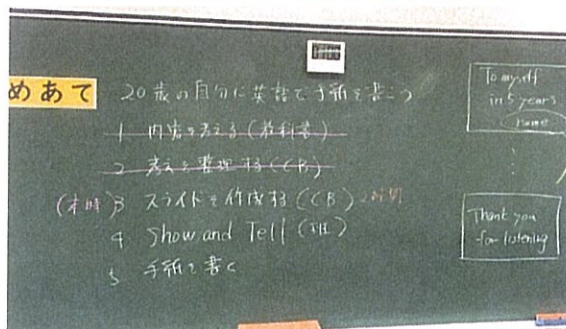


【ICT 機器を活用する良さ】

- 写真を用いることにより、発表するときの補助になり、聞き手の興味を引くことができる。
- スクリーンで共有できるので、生徒に振り返りの時に内容を理解しやすい。
- 印刷をする必要がなく、スピード感をもって言語活動をすることができる。

【改善すべき点と原因および改善案】

- この課では間接疑問文と原形不定詞が言語材料となっていたが単元の1時間目での扱いが曖昧だった。
- 一人一人の学習状況を見極めながら、引き続き個に応じた支援を継続していく。



## フォームを活用しアンケートを実施する

担当 下田 妃華

### 【活動の目標】

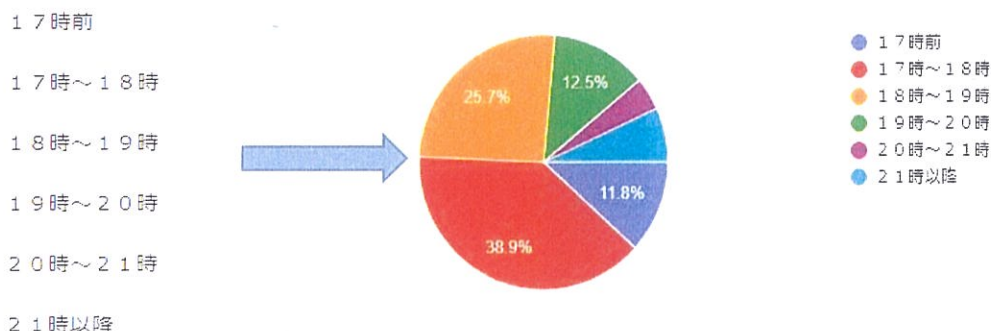
保健係の活動として、学年毎に附属中学校の健康課題について考えている。生徒の実態を詳しく知るために、アンケートを実施することにした。

(1年：電子機器の使用について 2年：睡眠について 3年：生活習慣について)

今回 ICT を活用した場面	従来 of 活動
・ google form で生徒が作成したものを google classroom を活用して、アンケートを実施。	・紙媒体でアンケートを実施し、結果をExcel 等に入力・集約していた。

### 【資料】 実際のアンケートの図

手書きで記入するアンケートを回収して、平均値の算出を目的



### 【ICT 機器を活用する良さ】

- グラフに作成したものが結果として出てくるため一目で結果を理解することが出来るほか、情報収集が行いやすい。
- 記入したアンケートを回収し、出席番号順に並び変えることや、アンケートの結果を入力し分析するなどの手間が省け、時間短縮になる。
- 紙を使用しない為、経費削減につながる。

### 【改善すべき点と原因および改善案】

- 改善すべき点ではないが、今回のアンケートの結果をもとに、附属中学校の健康課題の実態を把握することが出来た。今後、健康課題を改善していくために何が必要なのかということのスライドにまとめて発表していきたい。



生徒会活動

I 期の活動の振り返りと II 期の目標設定

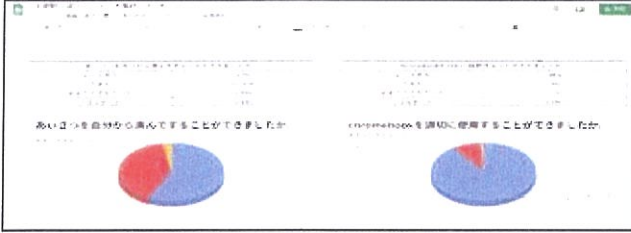

担当 阿南 幸一

【活動の目標】

Meet を通して I 期の生徒会活動を振り返ることで、課題と改善点を明確にし、各学級の II 期の重点ポイントの設定につなげることができる。

【 問 い 】

(めあて) I 期の活動の反省をふまえて、II 期の重点ポイントを設定しよう。

今回 ICT を活用した場面	従来の活動
<p><b>B4 表現・制作</b></p> <p>学年ごとの I 期の振り返りアンケートの集計結果をもとに、全校生徒の集計結果をスプレッドシートに整理し、円グラフを作成する。</p> 	<p>紙媒体で振り返りアンケートを実施し、集計する。</p> <p><b>【ICT 機器を活用する良さ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○事前準備として、Form で I 期の振り返りアンケートを作成する。</li> <li>○Form で集計した結果をもとに、スプレッドシートで整理し、円グラフを作成する。</li> </ul>
<p><b>C1 発表や話し合い</b></p> <p>Meet を通して、I 期の振り返りと II 期の取組について情報を共有する。また、I 期の反省をふまえて、学級ごとに II 期の重点ポイントを設定する。</p> 	<p>I 期の振り返りアンケートの集計結果を生徒会新聞に記載し、配付する。</p> <p><b>【ICT 機器を活用する良さ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○円グラフを作成した後、スライドを作成し、Meet で共有をかけ、情報を共有する。 ⇒画面を通して視覚的に理解しやすくなる。</li> <li>○II 期の活動の取組をデジタルサイネージで掲示することで、活動を意識させることができる。</li> </ul> <p><b>【改善すべき点と原因および改善案】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板に映し出すことで、文字が小さく見えづらくなることもあるので、フォント等に留意する。</li> </ul>

バスケットボール部

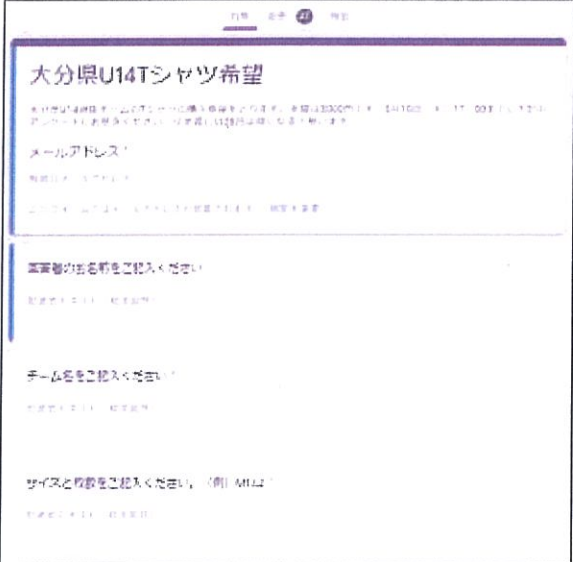
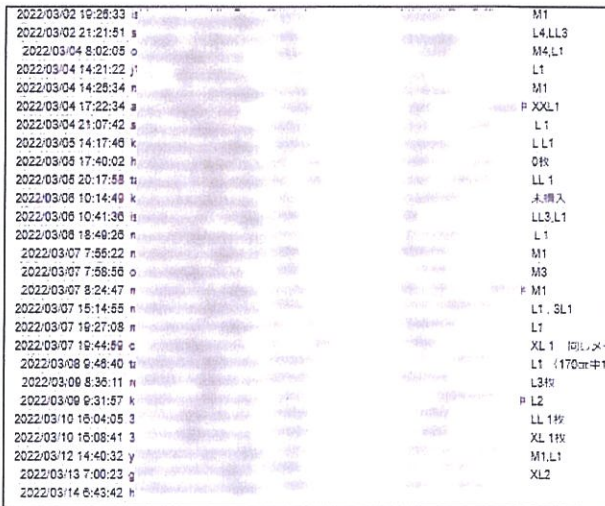
グーグルフォームを使用した T シャツ購入希望者の受付

名前 小野 智博

【ICT 活用 の 目標】

バスケットボール競技における大分県 U14 選抜・育成選手において、選抜 T シャツの購入希望を、グーグルフォームを使用することを通して、効率的に行うことができる。

【実践事例】

<p>送信</p> <p>○ U14 選抜・育成選手が所属するチームのコーチにグーグルフォームと T シャツデザインを送信する。</p>  <p>従来は様式を FAX し、返信をしてもらっていた。</p>	<p>返信</p> <p>○グーグルフォームに入力・送信してもらおうと下記のようなスプレッドシートが作成され、1 枚の様式でどのチームが何枚注文したのかが確認できる。</p>  <p>従来はチームごとに返信してもらっていたため、用紙の枚数が多く、また、こちらで集約する必要があった。</p>
--	--

【ICT 機器を活用する良さ】

- チームごとに FAX をする必要がなく、メールで一斉に送信できるため、時間が効率的である。
- どのチームが返信したかがすぐにわかり、希望枚数も一目でわかる。
- 用紙の紛失がないため、ミスが起こりにくい。

【改善すべき点と原因および改善案】

- ・ 附属中学校外の教員及び一般のバスケット関係者に回答をしてもらったため、設定を変更しなければ回答ができないことがあった。
- ・ 送信したチームが、自分の回答がわからなくなったというケースがあったため、設定で「回答のコピーを回答者に送信」にする必要性があった。
- ・ 今回はサイズと枚数をセットで入力してもらったため、それぞれの集計を別紙でださなければならなかったが、集計しやすくなるようにしたい。

特別活動

# 制服検討委員会の取組

担当 添島秀紀

制服検討委員会 平井梨咲子 陣嘉希 植松栞

【活動の目標】

新しい制服のあり方について全校生徒で考える活動を通して、制服の意義や多様性について生徒一人ひとりが考えることができるようにする。

【こんなことをしました】

- ①ドキュメントを使った企画書および活動記録の作成
- ②スプレッドシートを使った To Do リストの作成およびカレンダーでの予定表作成
- ③Jamboard を使った連絡掲示板
- ④Form を使ったアンケートおよびスプレッドシートを用いた分析活動

【活用の紹介】

- ①ドキュメントを使った企画書および活動記録の作成

ICT を活用した場面	ねらい・効果
<p>B3 思考を深める C3 協働制作</p> <p>学級討議などの特別活動の準備段階において、ドキュメントを使って企画書を作成する。活動後の記録も合わせて残すように。</p> <p>【備考】 当初は企画書が原稿なども兼ねていたが、11 月頃からは企画書でおおまかなゴールを決め、計画を立ててから原稿やスライドを作るようにした。</p>	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動に向けたゴールイメージを明確に共有するため</li> <li>・活動を記録し、次の活動に繋げやすくするため</li> </ul> <p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員で見通しを持って、計画を練ることができるのでミスが少なくなった。担当教員との共有もしやすい。</li> <li>・行った活動を振り返りやすくなったので、次の活動で行う内容を絞ることができた。</li> <li>・企画書⇒スライド⇒発表原稿の順に作成をすることで活動の「ねらい」や「目的」にあった発表資料を作ることができるようになった。</li> </ul>

【資料】企画書・活動記録

当初は企画書内で原稿まで作成。ゴールを明確にすることで資料も作りやすくなった。

学校説明会

（全体）学校説明会に来た人たちに指中の制服や取り組みの魅力を伝え、資料に添ってみたいなと思ってもらう  
（委員）これをまと振り返り、検討委員会の神のくくりをする

●期日の流れ

期	内容	ポイント
1	期	自己紹介
2	制服検討の経緯	制服検討委員会とはなに？ 学校生活にどう影響？
3	制服の意義	制服をまとめるから大切にしたいこと、自分たちで決めることの大切さを伝える
4	全校生徒参加の仕組み	全校生徒の意見を集める仕組みを作る
5	発表へ	学校説明会と生徒会発表の準備

※資料や原稿のトップページなども見直しして1分半程度で発表できるようにする

活動記録

期	内容	ポイント
1	期	自己紹介
2	制服検討の経緯	制服検討委員会とはなに？ 学校生活にどう影響？
3	制服の意義	制服をまとめるから大切にしたいこと、自分たちで決めることの大切さを伝える
4	全校生徒参加の仕組み	全校生徒の意見を集める仕組みを作る
5	発表へ	学校説明会と生徒会発表の準備

②スプレッドシートを使った To Do リストの作成およびカレンダーでの予定表作成

ICT を活用した場面	ねらい・効果
<p>C2 協働での意見整理 C3 協働制作</p> <p>スプレッドシートのテンプレートにある「To Do リスト」を使い、タスク管理を行った。</p> <p>また、活動に向けてのカレンダーを作成し、予定を共有することで、ゴールに向けて、いつ何をすればよいかを明確にした。</p>	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やらなければならないことやその期限を共有するため</li> <li>・見える化をし、計画的に作業をすすめるため</li> </ul> <p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ToDo リストがあることで、その時やるべきことに集中して取り組むことができるようになった。</li> <li>・ゴールに向けていつまでに何をしないといけないかが明確になり、作業効率がよくなった。</li> </ul>

【資料】ToDo リストとカレンダー

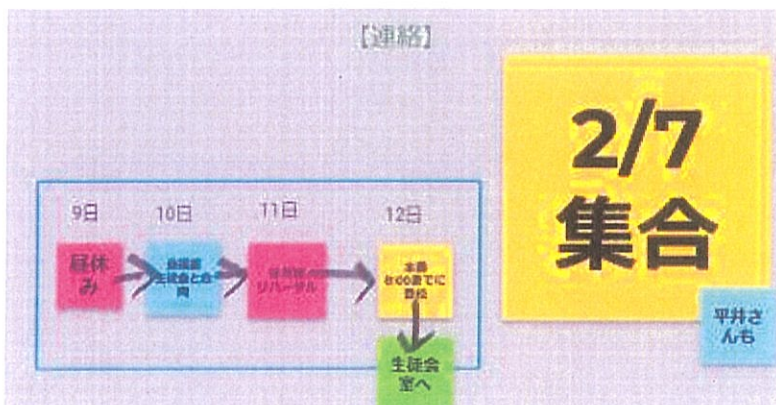
日付	タスク	状況	期限	担当者
10月24日	学校説明会までの準備作成	完了		
10月25日	学校説明会	準備中	子供	
10月26日	説明会準備	完了		
10月27日	説明会準備	完了		
10月28日	説明会準備	完了		
10月29日	説明会準備	完了		
10月30日	説明会準備	完了		
10月31日	説明会準備	完了		



③Jamboard を使って、連絡掲示板

ICT を活用した場面	ねらい・効果
<p>C2 協働での意見整理</p> <p>連絡事項などを Jamboard の付箋を使って知らせる</p>	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡忘れや連絡の行き違いをなくすため</li> </ul> <p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スプレッドシートと比べ気軽に使い、急な日程の変更にも対応しやすい。</li> <li>・口頭で伝えるより正確性があり、用事を忘れることが減った。</li> </ul>

【資料】Jamboard を使った掲示板



④Form を使ったアンケートおよびスプレッドシートを用いた分析活動

ICT を活用した場面	ねらい・効果
<p>B2 調査活動</p> <p>Form を使ってアンケートを実施した。 アンケート結果をスプレッドシートに変換し、グラフなどを用いて分析した。</p> <p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問内容や分析の仕方次第でアンケートの内容以上のものが得られる。</li> <li>・状況によっては生徒が結果を見る前に教師がチェックするなどデータの取り扱いを慎重にする</li> </ul>	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校生徒から率直な意見を出してもらうため</li> <li>・グラフ化など簡単にできるので速やかに分析するため</li> </ul> <p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・結果を一覧表示することで様々な立場からの意見が見やすくなり、いろいろな意見を取り入れやすくなる</li> <li>・フォームが自動的にグラフ化してくれるため、別のアンケート結果と比較ができる。</li> </ul>

【資料】 アンケートの結果と分析内容



学級討論後アンケート 分析

アンケート実施内容

主に学級討論による考えの変化を見ることを目的として実施  
学級討論後(7月12～15日)実施  
回答者 337人

前回のアンケートとの比較

項目	6月 (回答 388人)	7月 (回答 337人)	
種計に対する考え			種計の人が 64.2%→92.1% 大幅に増えた
セラーパンツスタイルを服用したいか			ほとんど変わらない 希望者の割合が 36.6%→32.6% 少し減った
その他			全体的に回答の量が増え、空白回答が減ったが、まだ意見の差がみられた

【ICT 機器を活用する良さ】

- データの取り扱いが紙より遥かに楽になった。
- 活動するイメージを共有しやすい、一般化がしやすい。
- 今までできなかったこと(頻繁に全校生徒を対象にアンケートをとるなど)ができるようになった。
- 共有したファイルを同時進行で編集できるので効率が良い

【問題点】

- 学力や健康にどう影響するかがわからないこと。
- 家庭で行う場合、個人の負担が大きくなる場合がある。
- ICT 機器を使いこなせる人とあまり得意ではない人との差→生徒会活動などに対して「ICT 機器を使いこなせないと入れない」などのイメージができてしまっは本末転倒になってしまう。

【まとめ】

- 生徒会(特別活動)に ICT 機器を用いるのはデータを共有できるなど効率面でのメリットがある。しかし企画書などを作成し、やることを明確にしないと、誰が何をいつまでにしないとイケないかが分からなくなり、人任せになってしまう可能性がある。
- 資料作りにおいては、対象者を意識して特別活動は全校生徒で行うという当事者意識を持たせるように心がける必要がある。その中で見やすさやフォントなどユニバーサルデザインを意識して作るようにする。

保健係活動

デジタルサイネージを活用した保健係活動

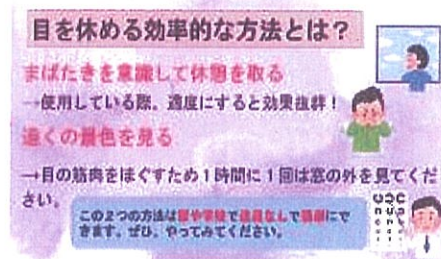
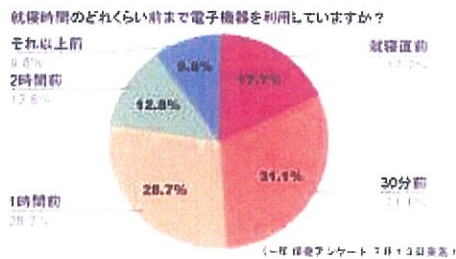
担当 下田妃華

【ICT活用目標】

コロナ禍において狭い空間に大人数が集まることへの懸念がある。集会等を行えない場合に保健系の生徒たちが活動内容を周知する場面としてデジタルサイネージを活用して健康保健に関する内容を周知する。

【実践事例】

- ①保健系の生徒たちに附属中学校の健康課題について考えさせ、各学年ごとに健康課題を見つける。
- ②各学年の実態を詳しく知るためにアンケートを実施し分析する。
- ③分析結果から、課題を見つけ健康課題解決のためにどのようにすればいいか文献等で調べ、その結果をクロムブックのスライドで作成する。



以前はアンケート実施で紙媒体を使用し、全校生徒へ周知する際も、紙媒体を使用したり、デジタルを活用する場合も一人一台端末ではない場合、パソコン室などで作業を進める必要があった。

【ICT機器を活用する良さ】

- 一人一台端末の為作業が早くなる。
- 紙を印刷する必要がなくなる。
- アンケート用紙を回収し集計を取る必要がなくなり、収集結果のミスが無くなることや時間が効率的である。

【改善すべき点と原因および改善案】

- 全校集会などで周知した後デジタルサイネージに掲示するとより効果的になる。
- 自身がICT活用の知識増やしていく必要がある。